

平成28年度 ぼちぼちの会研修会報告書

スクールカウンセラーから見た子育て

～思春期・不登校・特別支援教育～

・生徒の進路情報・発達段階と親の関わり・障がいの理解など

◎日時：平成28年12月2日（金）19:00～

◎場所：福岡市立若久公民館（福岡市南区若久1丁目11-20）

◎講師：武部 愛子 先生（臨床心理士）

◎内容：講演、質疑応答（具体事例アドバイス）

- ・臨床心理士 ・福岡こども短期大学 子ども教育学科教授
- ・福岡市スクールカウンセラー運営委員
- ・太宰府市スクールカウンセラー
- ・福岡県スクールアドバイザー
- ・発達障がい児等教育継続支援事業に係る巡回相談 相談委員
- ・学童保育協会 副理事長 ・博多学園高校スクールカウンセラー

平成28年12月2日（金）19時から「平成28年度ぼちぼちの会研修会」を若久公民館で実施しました。

本年度も、福岡こども短期大学教授で臨床心理士の武部愛子先生を講師に迎えて子育ての悩みについて講演やアドバイスを受けながら学習をしたいと思います。武部先生はその豊富な経験と分かりやすい解説で大変人気のある方です。福岡市のみならず各地での講演は「保護者の会」「人権講演」「民生委員や主任児童員研修」などで、子育てから発達障がいの理解など幅広いお話が聞けました。変化の激しい時代、従来の子どもに対する見方や接し方だけでは理解できないことが増えてきています。一人で悩まずみんなで考えていければと思っています。

参加者は44名で、篠栗町や春日市、小郡市などからも参加されていました。主な内容は子どもの発達段階と親の関わり、発達障がいの理解など基本的な話をしていただいた後、質疑形式で今保護者が困っていることに対して具体的なアドバイスをしていただき21時過ぎに終了しました。今回は個別相談の時間を持たず質疑応答の時間を確保するようにし、みんなで一緒に考えることを大切にしました。今後の参考にしたいと思いますので感想や運営の仕方など意見をたくさん頂ければ幸いです。

- ・以前は学校に行くのが当たり前であったが今の子どもは学校に行かないということもあると認識している。親の世代はそれが理解できない。
- ・基本的にまじめできちんとできる子。行き当たりばったりは苦手で納得しないと行動できない。大人から見たら能力のある賢い子。しかし白か黒かのグレーがない子。
- ・大人の求めることをしようとする、大人と話せる子は子どもの世界で生きていけない。
- ・発達障がいとは病気ではないので治療はない。それは個性であったそれを持って生きていく。

「障がい」はなおすものではなく性格と認めていく。周囲から『変われ』と言われると自分が否定されてしまうとを感じる。

- ・発達障がいは悪いわけでもなく本人のせいでもない。劣っているのではなく『8割の人とどのくらいずれているか』ということ。『8割の人』ができるのだから合わせていくのは難しいこともある。ここに困り感がある。
- ・小さい時のいざこざが多い子どもは自分の主張があって相手の主張と対立する子どもしか起こらない。子どもはいざこざの中で対人関係を学んでいく。折り合いのつけ方はどこで妥協するかということ。そこで他人とうまくやっていく方法を学ぶ。異年齢では折り合いをつける必要がないのであまりいざこざが起こらない。同年齢だと落とすところがわからずトラブルに発展してしまう。

・・・発達検査のしくみや内容・どう利用するかなどの説明が具体的な事例を挙げながらありました・・・

- ・集団の苦手な人は『8割の人』が答えることと感性が異なっている。本人なりの考えを持っている。しかし、自分の考えを言っても受け入れられない経験を持っている。このことから2次障害を起こすこともある。
- ・答えがユニークな人ほど発達検査の点数は低くなる。実際にIQが低いわけではない。
- ・でこぼこが多いと生きていきにくく誤解をされやすい。

・・・質疑・・・

- ① 小6男子：LD書字障がい。デイケアに行っている。中学校に上がるにあたってどのような配慮をしたらよいか。
 - ・対人恐怖はデイに行けているので軽い。人に反応しているのではなく学校というシステムに反応している。板書を優先するより書きたいものを書いていく。

パソコンやタブレットの利用。

② 中3男子：睡眠がうまく取れない。体調不良が続く。ゲーム依存傾向。

- ・精神的不安→自律神経の揺れ→身体症状 不安化以降の子どもはなりやすい。永久に続くことはない(気が付いたら消えている)
- ・起きている時は体を起こしておく。寝る時の環境を整える。
- ・ゲーム機などのブルーライトは脳を起こす。睡眠外来の利用。

③ 小1男子：夏休み明けから不登校。大きな声を出す先生が怖い。母親と同伴登校。学校以外では元気。FSでは楽しそうに過ごす。

- ・知覚過敏は徐々に鳴らしていく。
- ・先生嫌悪症 先生の仕事、だって先生だもの。先生ってそんなもの。
- ・学校は使いどころ。タイミングと使い方。
- ・その状況でやれること。親が答えを出してしまうと親の問題になってしまう。





主催 ぼちぼちの会 <http://bochibochinokai.com/>
福岡市家庭教育地域支援補助金事業